

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立星が丘中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 223 人

② 数学 224 人

③ 英語 224 人

5 留意事項

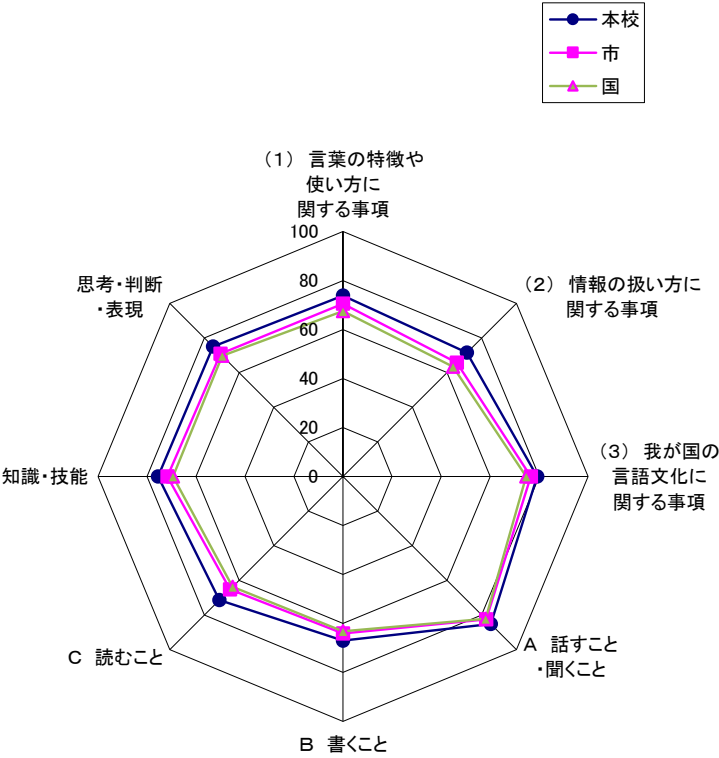
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立星が丘中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	73.8	70.5	67.5
	(2) 情報の扱いに関する事項	71.5	65.7	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.2	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	85.2	82.6	82.2
	B 書くこと	67.0	64.1	63.2
	C 読むこと	71.4	65.3	63.7
観点	知識・技能	75.5	71.7	69.4
	思考・判断・表現	75.0	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

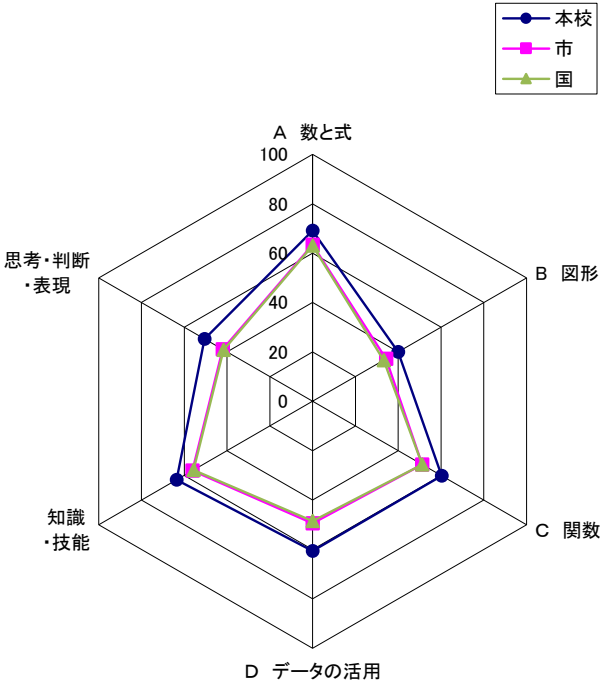
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○領域の正答率は73.8%で、全国の平均正答率を6.3ポイント上回っている。 ●文脈に即して漢字を正しく書く問題では、全国や市の平均正答率を上回っているものの、正答率が60%を下回っている。	・単元ごとの、漢字テストを引き続き行うことで、読みだけでなく書き取りの力の定着を図る。 ・語彙を調べたり、短文を作らせたりすることで語彙力を高めさせる。
(2) 情報の扱いに関する事項	○領域の正答率は71.5%で、全国の平均正答率を8.1ポイント上回っている。 ●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題では、全国や市の平均正答率を上回っているものの正答率が7割程度と低い。他領域に比べて、苦手意識をもっている生徒が多い。	・様々な資料から伝えたい内容を検討し、そのうえで表現させる時間を設けることで、伝えるべき内容を考慮して書き表す力を付けさせるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○歴史的仮名遣いを現代の仮名遣いに直す問題では正答率が84.8%と高く、古文を読む基礎が身に付いている。 ●古文の中の語句と現代語訳が結びついていない様子が見られ、無解答の生徒が3.1%いる。	・古文の言葉の切れ目や単語としてのまとまりを意識させる指導をしていく。
A 話すこと・聞くこと	○領域の正答率は85.2%で、全国の平均正答率を3.0ポイント上回っている。 ●聞き取ったことを元に目的に沿って自分の考えをまとめる問題では、無回答率11.7%と高い。	・グループでの話し合い活動を定期的に取り入れ、グループでの役割をローテーションしながら話し合い活動を行うことにより、聞く力と相手の意見を踏まえて自分の考えを述べる力を身につけられるよう指導していく。
B 書くこと	○領域の正答率は67.0%で、全国の平均正答率を3.8ポイント上回っている。 ●全国の平均正答率を上回っているものの他領域に比べ正答率が低く、課題が残る。他領域に比べて、苦手意識をもっている生徒が多い。	・授業において、自分の考えを書き表す時間をできるだけ設けるようにする。 ・レポートや作文などの相手に伝える文を書く際に、より伝わりやすい表現の仕方について考えるようにさせる。
C 読むこと	○領域の正答率は71.4%で、全国の平均正答率を7.7ポイント上回っている。 ●すべての設問において、全国の平均正答率を上回っているものの、文章の構成や展開、表現の効果について考える問題では、正答が6割に満たず理解が十分とは言えない。	・説明的文章などの教材を通して、文章の展開を捉えたうえで、それぞれの段落のまとまりが持つ役割や効果について考える場を設けるようにする。

宇都宮市立星が丘中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	69.1	63.4	63.0
	B 図形	40.0	34.3	33.2
	C 関数	60.3	51.2	51.2
	D データの活用	60.6	49.4	48.5
観点	知識・技能	63.6	56.2	55.7
	思考・判断・表現	50.5	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

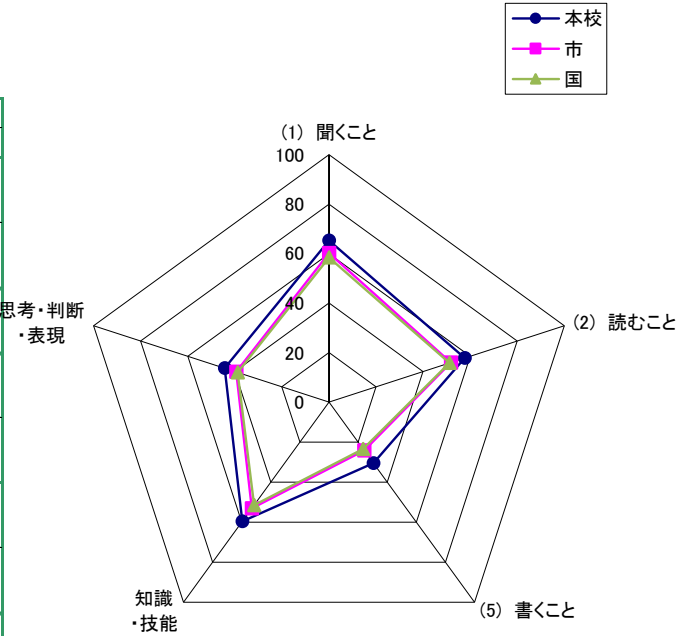
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○領域の正答率は69.1%で、全国の平均正答率を6.1ポイント上回っている。数と整式の乗法の計算については、正答率が86.6%、数式の計算の問題場面における考察の対象を明確に伝えることができるかどうかをみる問題については、正答率が90.2%と非常に高く、数学的な技能については、定着が図られている。 ●4の倍数になる説明問題では、平均正答率が52.2%で、全国の平均正答率を11.3ポイント上回っているものの、無解答率が17.4%と高い。	・基本的な計算技能の習得のために、反復練習を継続して行っているが、今後も継続し、より一層の定着を図る。 ・数と式の性質の説明問題には苦手意識があるので、順序立てて説明する演習を行い、問題に慣れさせ、苦手意識をなくしていく。
B 図形	○領域の正答率は40.0%であるが、全国の平均正答率を6.8ポイント上回っている。知識・技能に関する問題で、空間における平面が1つに決まる場合を問われる問題の正答率は、全国の平均正答率を11.1ポイント上回っている。 ●図形の性質を見いだし、それを数学的に証明する問題では、全国の平均正答率を6.7ポイント上回っているものの、正答率が38.8%で低く、また、無解答も多い。	・図形の性質を説明する際に、根拠をもって述べること、順序だてて文章を構成することが苦手な生徒が多い。図形の基礎・基本を見直すとともに、説明するための根拠に常に目を向けるよう指導していく。 ・証明問題に苦手意識をもっている生徒が多いので、生徒の理解度に応じて段階を追ったきめ細かな指導を行う。
C 関数	○領域の正答率は60.3%で、全国の平均正答率を9.1ポイント上回っている。 ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題では、全国の平均正答率を6.8ポイント上回っているものの、正答率が5割に満たず、理解が十分とは言えない。	・日常生活に関わる具体的な事象についての問題解決に、関数の考え方を利用することで、教科の有用性を感じさせるように指導する。各学年の関数の単元の授業では、計算だけでなく、問題解決にどう生かされているかを考えさせることを意識して指導する。
D データの活用	○領域の正答率は60.6%で、全国の平均正答率12.1ポイント上回っている。四分位範囲を理解しているかどうかをみる問題では、正答率が8割を超え、全国の平均正答率を16.0ポイント上回っている。 ●複数の集団のデータの分布を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題では、正答率が5割に満たず、また無解答も14.3%と高く、課題が残る。	・四分位範囲については、その意味を理解し、習得できている。複数のデータの比較については、説明に言葉が足りず、うまく表現できないことが課題である。日頃から、自身の考えを述べる際に、数学用語を用いて、その根拠を明らかにして話すことを意識させて指導する。

宇都宮市立星が丘中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	(1) 聞くこと	65.3	60.2	58.4
	(2) 読むこと	57.7	51.8	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]			
	(4) 話すこと[発表]			
	(5) 書くこと	30.5	24.2	23.4
観点	知識・技能	59.6	53.1	51.5
	思考・判断・表現	44.3	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 聞くこと	○領域の正答率は65.3%で、全国の平均正答率を6.9ポイント上回り、説明文、対話文から情報を正確に聞き取る力を身につけている生徒が多い。 ●日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る問題の正答率は51.3%で、国の平均正答率を上回っているものの、他の問題に比べると低い。	・今後も授業でのオーラルイントロダクションを効果的に行いながら、情報を正確に聞きとる力を伸ばしていく。 ・漠然と聞くのではなく、目的・場面・状況を意識して情報を聞き取る力を育てていく。 ・ALTを授業の中で効果的に活用し、ネイティブの発音に慣れさせる。
(2) 読むこと	○領域の正答率は57.7%で、全国の平均正答率を6.5ポイント上回っている。事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する問題については、全国の平均正答率を9.9ポイント上回っている。 ●メールを読み、相手が示した条件に最も適切なものを選択する問題では、正答率が34.4%で、全国の平均正答率を1.5ポイント下回っている。	・教科書や教科書以外の読み物教材を活用しながら、まとまりのある英文の要点を捉える力を継続的に育てていく。 ・長文に対する苦手意識をもつ生徒がやや多い。段階的に英文の量を増やしながら、英文の読解に慣れさせていく。
(5) 書くこと	○領域の正答率は30.5%で、全国の平均正答率を7.1ポイント上回っている。特に、与えられた英語を適切な形に変え、不足している語を補い、会話を完成させる問題では、全国の平均正答率を13.6%上回っている。 ●他の領域と比較すると、正答率が低くなっている。特に、学校生活についてまとまりのある文章を書く問題では、9.8%と低い正答率となっている。	・授業において、あるトピックについて自分の考えを書く活動を今後も継続していく。 ・まとまりのある英文を読んで意見を書いたり、対話したことを英語で書いたりするなど、統合的な活動を行っていく。 ・書くことに対する苦手意識をもつ生徒に対しては、TTIによる指導方法を工夫しながら書く力の定着を図る。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「自分にはよいところがあると思いますか」に肯定的回答をした生徒は8割を超えている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に肯定的回答をした生徒は88.2%であり、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に肯定的回答をした生徒は73.3%で全国平均より6.6ポイント高く高くなっている。安心した学校生活を送れている生徒が多く、自己肯定感が高められている。

○「友達関係に満足していますか」に肯定的回答をした生徒は9割を超え、全国平均や県平均を上回っており、良好な交友関係がうかがえる。

○「読書は好き」に肯定的回答をした生徒は74.2%で、全国平均より8.2ポイント高くなっている。また、「新聞を読んでいる」と回答した生徒も、全国平均より4.3ポイント高い。朝の読書活動を継続していることや、司書教諭を中心とした積極的な呼びかけ、図書委員会のブックトークなどの活動が功を奏した結果と考えられる。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に肯定的回答をした生徒は73.3%で、全国平均を6.9ポイント上回っている。全教職員で生徒を褒めて伸ばす指導に努めている成果と考えられる。

○「授業以外に、1日あたり2時間以上勉強している生徒」は、平日35.6%、週末57.7%で全国平均や県平均を上回っており、学習の習慣がついている生徒が多い。

○「国語の勉強は好きですか」に肯定的回答をした生徒は71.6%で、全国平均より10.2ポイント高い。

○数学の問題の、解答を言葉や数、式を使って説明する問題について、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒は70.5%で、全国平均より13.4ポイント高い。

○「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」に肯定的回答をした生徒は9割を超えている。

●家で自分で計画を立てて勉強していますか」に対する肯定的回答をした生徒は56.0%で、全国平均より1.0ポイント高いものの、県平均より6.1ポイント低い。

●「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」に対する肯定的回答をした生徒は56.4%で、全国平均より5.7ポイント低い。

宇都宮市立星が丘中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・多面的に考え、自らの考えを進んで表出する生徒の育成 ・本時のねらいを共有し、意欲をもって学ぶ生徒の育成	・各教室にホワイトボードを据え置き利用することやClassroomの利用やJamboardの共有、学びポケットの活用などを推進する。 ・授業において『本時の目標』の提示や、ねらいに即した展開をする。	・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」に対する肯定的回答が78.6%で、全国平均より1.0ポイント高くなっている。 ・「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」に対する肯定的回答が76.0%で、全国平均より6.9ポイント高くなっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
PCやタブレットなどのICT機器を、自分で調べる活動には多く使っているが、協働学習の道具としての活用頻度が低い。	Chromebookの活用の幅を広げる。	タブレット端末は、総合的な学習の時間の活動のまとめや発表などで活用の他、各教科の学びポケットの活用も増えてきた。生徒会や生徒会専門委員会のアンケート集計などの利用も進んでいる。今後は、さらに授業の中での意見交換や、まとめのスライド作りなど協働学習の道具としての活用を進めていく。